

京都移転後の主な取組について

令和8年3月27日

文化庁 京都移転の経緯

平成28年3月

文化庁の京都移転が決定

「政府関係機関移転基本方針」（まち・ひと・しごと創生本部決定）

- 外交関係や国会対応の業務、政策の企画立案業務（関係省庁との調整等）の事務についても現在と同等以上の機能が発揮できることを前提とした上で、地方創生や文化財の活用など、文化庁に期待される新たな政策ニーズ等への対応を含め、文化庁の機能強化を図りつつ、全面的に移転する。

平成28年11月

「文化芸術立国の実現を加速する文化政策～「新・文化庁」を目指す機能強化と2020年以降への遺産（レガシー）創出に向けた緊急提言～（答申）」（文化審議会）

平成29年4月

文化庁地域文化創生本部を京都に設置【先行移転】

平成29年6月

文化芸術基本法成立

○観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り込む。

○生活文化の例示に「食文化」を追加。

○文化芸術に関する施策を総合的に推進するため、政府は文化庁の機能の拡充等について、その行政組織の在り方を含め検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

平成29年7月

文化庁の京都移転の規模・移転先を決定

「新・文化庁の組織体制の整備と本格移転に向けて」（文化庁移転協議会決定）

- 文化庁・本庁を京都に置く。その職員数（定員及び定員外職員の数）は、全体の7割を前提に、京都府、京都市をはじめとする地元の協力も得ながら、250人程度以上と見込むものとする。
- 現京都府警察本部本館を文化庁の移転先とする。

平成30年10月

総合的な文化行政の推進に向けた機能強化と京都移転を見据えた文化庁の組織再編（文科省設置法等改正）

令和元年・2年

京都移転シミュレーションを実施

令和4年12月

京都府における文化庁の新庁舎整備工事の竣工



令和5年3月

京都における業務開始

令和5年5月

京都における業務が本格稼働

目指すビジョン

- ✓ 過疎化や都市集中といった社会課題を解決するため、**人と人との心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力のある社会を形成する源泉**となる、文化芸術の価値・役割は、大きく増している
- ➔ 文化芸術によって、**地域の可能性を引き出し、魅力を高め、各地域で人々が幸福を感じられる社会を形成**していく
- ➔ その社会形成のムーブメントを、京都・関西の地から文化芸術の花火を打ち上げることで、起こしていくことを目指す（文化庁京都移転の意義）

文化芸術推進基本計画(第2期)

- 文化芸術は、人々の創造性を育み、豊かな人間性を涵養するとともに、人と人との心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力のある社会を形成する源泉
- 文化庁の京都移転を契機として、国と地方公共団体の連携を一層深め、地方創生・地域活性化にも資する文化芸術を振興していく



京都庁舎除幕式

ビジョンを目指す取組の実行

2023.3 文化庁京都移転

取組① 関係自治体や関係団体と連携した取組の推進

文化芸術の国際発信とグローバル展開にビジネスの観点を取り入れて戦略的に取り組むCBX (Cultural Business Transformation) を、京都府・京都市や関西広域連合、関西経済連合会などと連携し推進。

- ナイトタイムイベントの開催
(ナイトタイムシンポジウム、ナイトミュージアム、植物園アートナイトウォーク)
- 音楽とアートの融合による新プロジェクトの実施



取組② 文化観光推進本部・食文化推進本部の設置

京都移転を契機として、大阪・関西万博も見据え、食文化・文化観光施策を、総合的かつ効果的に推進するため設置。

- 文化財を活用した文化観光の推進による地方創生パッケージを策定
- 食文化の魅力発信等の強化、食文化に関する顕彰の充実



登録無形文化財
「菓銘をもつ生菓子（煉切・こなし）」



二条城（世界遺産・国宝）

官民連携のユニークベニュー活用により、新たな客層を開拓。収益を文化財修理に充当。

旧三井家下鴨別邸（重要文化財）

地域の老舗料理屋による朝食体験や、夜間開館、一棟を貸し切る高付加価値化で収入拡大、地域へ経済波及。



京都・関西での取組の展開

- MUSIC AWARDS JAPANへの支援
- Music Loves Art の展開
- ナイトタイム・エコノミーの推進

京都・関西から 新たな文化行政を展開

- 2025- 大阪・関西万博
- 2027- ワールドマスターズゲームズ関西
- 2030- ポストSDGs

全国へ取組の普及・展開

- 石川県における食文化・文化観光推進本部の設置
 - 滋賀県における国・文化連携担当の設置
- 文化芸術を通じた地方創生



文化庁・関西広域連合・関西経済連合会・文化庁連携プラットフォーム共同宣言 「文化の力で関西・日本を元気に」 (概要)



令和5年7月20日、「関西広域連合と関西経済連合会との意見交換会」において、文化庁と関西の自治体・経済界との共同宣言を採択。関西全体で、「文化芸術立国」の実現に向けて取り組む。

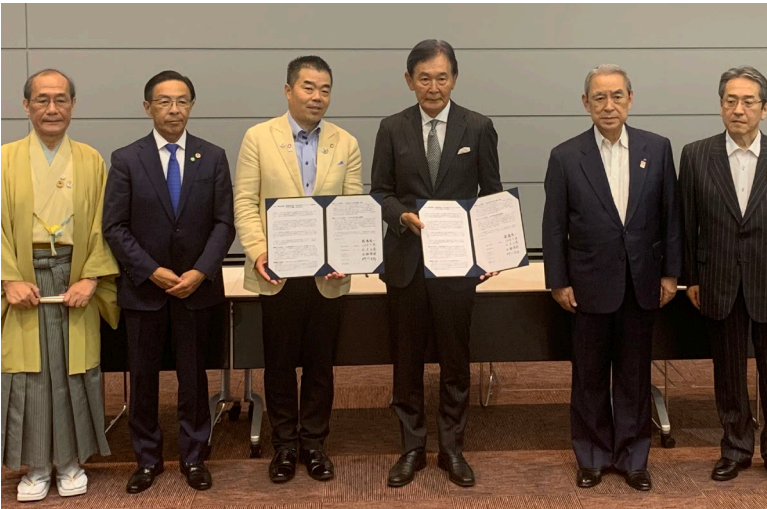
- 文化庁の京都への全面的な移転では、国内外の多くの人々を魅了する文化資源が数多く存在する関西で、その機能を強化しながら業務を開始し、日本全国の文化の力による地方創生の大きな一歩を踏み出した。
- 2025年には大阪・関西万博が開催される。文化芸術に関するこれまでの取組を更に進め、新たな価値を生み出し、日本の美や心を関西から世界に発信する絶好の機会となる。さらに、官民一体となって我が国の文化芸術の国際発信とグローバル展開にビジネスの観点を取り入れて戦略的に取り組むCBX (Cultural Business Transformation) を推進する。
- 文化庁、関西広域連合、関西の経済界が一体となって、行政、経済、教育、文化芸術等の関係団体や地域住民などと連携しながら、オール関西で、次のような取組を展開する。

■ **観光と文化芸術 ～ 文化資源を磨き上げてインバウンドの中核コンテンツに**
文化の活用から保存への持続可能な好循環のモデルを全国、「日本博2.0」の全国展開やそのレガシーの着実な継承・発展、国内アート市場の活性化による世界的なアート市場としての確立 等

■ **産業と文化芸術 ～ 文化によるインパクトある新たなものづくり**
日本の文化を生かすとともに、これまでの伝統産業やものづくり文化にデジタル技術を組み合わせるなどして、新ビジネス創出につなげ、文化による産業振興や国際市場への展開に向けた取組を深化 等

■ **暮らしと文化芸術 ～ 日本の暮らしの文化の継承・発展**
日本の暮らしの文化の次世代へと着実に継承、新たな価値の創造やその魅力の発信 等

■ **まちづくりと文化芸術 ～ 文化芸術は地方創生の起爆剤**
伝統（古典）文化から現代アートまで、更なる文化の融合、建築文化の価値の確立、劇場・音楽堂等をコミュニティの核として、誰もが文化芸術に親しめる環境の整備 等



令和5年7月20日

文化庁長官

関西広域連合広域連合長

関西経済連合会会長

都倉 俊一

三日月 大造

松本 正義

文化庁連携プラットフォーム共同代表

京都府知事

京都市長

京都商工会議所会頭

西脇 隆俊

門川 大作

塚本 能交

大阪・関西万博における文化庁の取組について



<2025年 日本国際博覧会（大阪・関西万博）>

期 間：2025年4月13日～10月13日 / 会 場：大阪夢洲（ゆめしま） / テ ー マ：「いのち輝く未来社会のデザイン」

万博に向けた機運醸成

○「日本博2.0」の推進

日本の文化芸術の魅力を国際社会にアピールすることを目的とした官民の大型国家プロジェクト。政府全体として「日本博総合推進会議」等により、関係省庁一体となって推進。



○文化庁と関西経済連合会等との共同宣言

2023年7月20日、大阪・関西万博を契機に、多様な文化芸術と観光や産業といった要素を連携させ、官民一体となってオール関西で文化芸術立国の実現に向けて取り組むことを宣言。



万博会場内での主な取組

【障害者芸術(展示)】

BiG-I Project～共通感覚を拡げて～
ビッグ・アイ共働機構

■ギャラリーWEST (6/1～6/4)

日本の建築文化/展示 文化庁(国立近現代建築資料館)等

■EXPOメッセ「WASSE」(9/9～9/13)

【障害者芸術(展示)】

障害者の文化芸術国際フェスティバル(美術作品展)
一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会

■ギャラリーWEST (10/8～10/11)

日本の食文化の発信 農林水産省、国税庁、文化庁

■EXPOメッセ「WASSE」(6/8～6/15)



【能楽(実演・展示)】

未来につなぐ、能楽の世界 公益社団法人能楽協会

■EXPOホール「シャインハット」(7/13～7/14)

【障害者芸術(実演)】

Dance Drama “Breakthrough Journey”
ビッグ・アイ共働機構

■EXPOホール「シャインハット」(10/7)

【障害者芸術(実演)】

障害者の文化芸術国際フェスティバル(パフォーミングアート)
一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会

■EXPOホール「シャインハット」(10/8～10/10)

アイヌ文化の対外発信

公益財団法人アイヌ民族文化財団
(内閣官房、国交省、文化庁等)

■アイヌ舞踊：
EXPOホール「シャインハット」(5/17)
■工芸品等の展示：
ギャラリーEAST (6/10～6/12)

[凡例]

文化庁が主体的に関わっているもの

「日本博2.0」の一環として支援するもの等

【組踊/からくり花火(実演・展示)】

琉球祭 Ryukyu Festival
国立劇場おきなわ

■ポップアップステージ南(5/4～5/6)

【文楽(実演・展示)】

大阪・関西万博「人形浄瑠璃文楽」
ミニ公演と特別展示「体感！文楽の世界」(仮)
独立行政法人日本芸術文化振興会

■ギャラリーEAST(8/15～8/17)

※ この他、会場外においても様々な関連イベント等を実施。 4

「日本博2.0」展開によるインバウンド拡充と地方誘客

❖大阪・関西万博の本番に向けて、最高峰の文化資源を更に磨き上げるとともに戦略的なプロモーションを推進し、年間を通じてインバウンド需要に的確に応えることにより、訪日機運の醸成と万博から現地への誘客を図る。

令和6年度採択事業※下線は補助事業

その他(全国展開)



手をつなぐ育成会
連合会(ユニバーサル
ツーリズム)



国立公園の発信
プロジェクト

国立公園の発信プロジェクト
全国街道交流会議、
DESIGN MUSEUM JAPAN、
手をつなぐ育成会連合会

関西

東映太秦映画村,あしたの畑,MUSIC AWARD JAPAN,細見美術館,
伝統文化(ブレイン),京都観世会,KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭,
西陣織(細屋),国立文楽劇場,山本能楽堂,art stage OSAKA・art
KYOTO,クリエイティブアイランド中之島,ビッグアイ,アートローグ
能楽の魅力発信,サマソニ,大阪府・市文化芸術ブランド化事業,大阪市博
物館機構(6館),万博大阪文化芸術事業,奈良県(飛鳥・藤原),興福寺(読売新聞),奈良国立博物館,ソ
ニャルサイエンスラボ,BIWAKOピエンナレ,竹中大工道具館

北陸・甲信越

金沢21世紀美術館,利賀村演劇事業,GO FOR KOGEI,大地
の芸術祭,さどの島銀河芸術祭,アース・セレブレーション



大地の芸術祭

「Tunnel of Light」
マヤソソ MADアーキテクト
(photo Nakamura Osamu)



金沢21世紀美術館

オラファー・エリアソン(カラーア
クティブイティハウス)2010
© 2010 Olafur
Eliasson
金沢21世紀美術館蔵
撮影:木奥恵三
写真提供:金沢21世紀美術
館



GO FOR KOGEI



GO FOR KOGEI

北海道



ルーツ&アーツ
しらおい2024

東北



三陸国際芸術祭
2024訪レ



みちのく
潮風トレイル

Photo:Koji Iwama

関東

国立劇場,新国立劇場,国立能楽堂,東京国立博物館,国立科学博物館,歌舞伎座,笑楽座,Top of
Top,山種美術館,国立新美術館,東京国立近代美術館,東京芸術祭,TOPPAN上野・谷根干魅力
発信事業,アニメツーリズム協会,マンガの聖地としまキョウ荘通りインバウンド活性化,高田
賢三展(毎日新聞社),ショートショートフィルムフェスティバル,SHIBUYA CREATIVE TECH,能楽協会,日本将棋連盟
,MUTEK.JP,東京ピエンナレ,日本フィルハーモニー交響楽団,東京二期会,CRAFT SAKE WEEK,超POP展KADOKAWA),
大日本弓馬会



国立能楽堂



能楽協会



新国立劇場



笑楽座

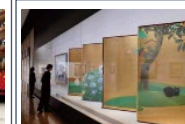


国立新美術館

「田名網敬一 記憶の冒険」
国立新美術館 2024年
展示風景 撮影:山本倫子
©Keiichi Tanaami /
Courtesy of NANZUKA



東京二期会



山種美術館



大日本弓馬会

騎射をする流鏝馬の射
手



マンガの聖地としま
トキワ荘通りインバ
ウンド活性化

中国・四国

鳥根県立石見美術館,瀬戸内国際芸術祭,
MIMOCA-丸亀市猪熊弦一郎現代美術館



MIMOCA

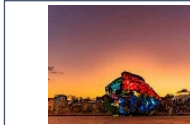
Photo by Yoshiro
Masuda

沖縄

国立劇場おきなわ,やんばるアートフェスティバル,琉球海祭2024



国立劇場おきなわ



やんばるアートフェスティバル

©YAMBARU ART FESTIVAL

東海・中部

演劇の都SHIZUOKA,MOA美術館,
富士山文化資源,養老鉄道,日下部民芸館



MOA美術館



日下部民芸館



静岡県舞台芸術センター

©Y.Inokuma



大阪・関西万博

CBX (Cultural Business Transformation) プロジェクト

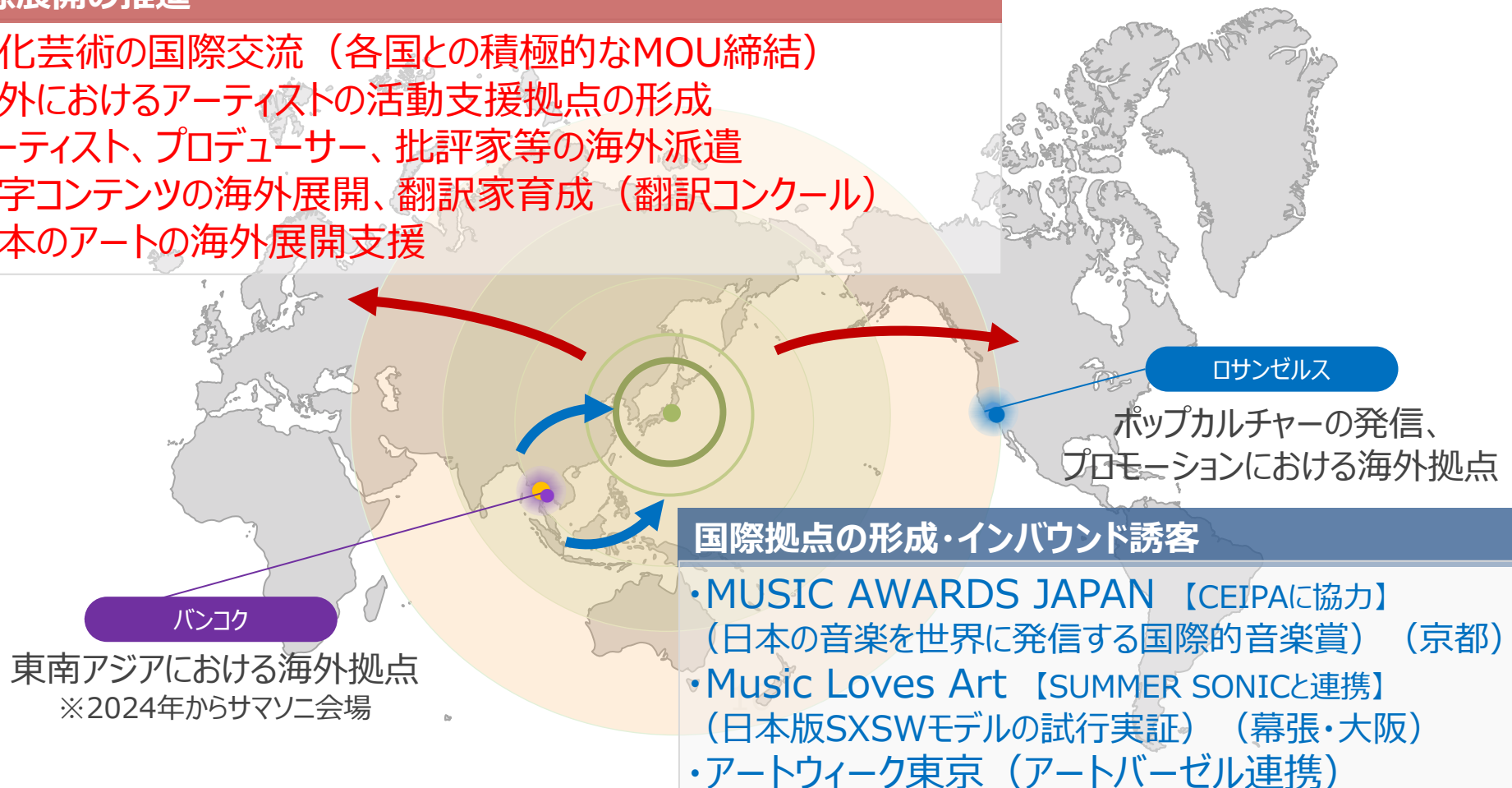
日本の文化芸術の自律性・持続性を実現するため、①活動主体の運営力を強化、②グローバルな活動展開を戦略的に推進
文化芸術と経済の好循環

+

これをサポートする基盤的活動として国内外で国際的な振興拠点の形成や、振興プロジェクトを推進

国際展開の推進

- ・文化芸術の国際交流（各国との積極的なMOU締結）
- ・海外におけるアーティストの活動支援拠点の形成
- ・アーティスト、プロデューサー、批評家等の海外派遣
- ・活字コンテンツの海外展開、翻訳家育成（翻訳コンクール）
- ・日本のアートの海外展開支援



ロサンゼルス

ポップカルチャーの発信、
プロモーションにおける海外拠点

バンコク

東南アジアにおける海外拠点
※2024年からサマソニ会場

国際拠点の形成・インバウンド誘客

- ・MUSIC AWARDS JAPAN 【CEIPAに協力】
（日本の音楽を世界に発信する国際的音楽賞）（京都）
- ・Music Loves Art 【SUMMER SONICと連携】
（日本版SXSWモデルの試行実証）（幕張・大阪）
- ・アートウィーク東京（アートバーゼル連携）

MUSIC AWARDS JAPAN

日本の音楽業界主要5団体が中心となって、一般社団法人カルチャー アンド エンタテインメント産業振興会（CEIPA）を設立。文化庁の協力のもと、CEIPAの主催により国内最大規模の国際音楽賞「MUSIC AWARDS JAPAN」（MAJ）を開催。本音楽賞では、日本の音楽のみならず、アジアの音楽を顕彰し、世界に向けて発信。



「MUSIC AWARDS JAPAN 2025」開催概要

【授賞式】 開催日：2025年5月21日（水）・22日（木） 会場：ロームシアター京都

【選出方法】 国内外のアーティスト、クリエイター、音楽関係の専門家等から構成される5,000名以上の投票メンバーによる厳正な投票により受賞作品を選出。

【表彰部門】 延べ3000作品以上のエントリーから、最優秀楽曲賞、最優秀アーティスト賞など主要6部門を含む全62部門の最優秀作品／アーティストを表彰。

主要6部門

Song of the year	Album of the year	Artist of the year	New Artist of the year	Top Global Hit from Japan	Best Song Asia
最優秀楽曲賞 Bling-Bang-Bang-Born (Creepy Nuts)	最優秀アルバム賞 LOVE ALL SERVE ALL (藤井 風)	最優秀アーティスト賞 Mrs. GREEN APPLE	最優秀ニュー・アーティスト賞 tuki.	Top Global Hit from Japan アイドル (YOASOBI)	最優秀アジア楽曲賞 Supernova (aespa)



©CEIPA / MUSIC AWARDS JAPAN2025



©CEIPA / MUSIC AWARDS JAPAN2025



©CEIPA / MUSIC AWARDS JAPAN2025



©CEIPA / MUSIC AWARDS JAPAN2025

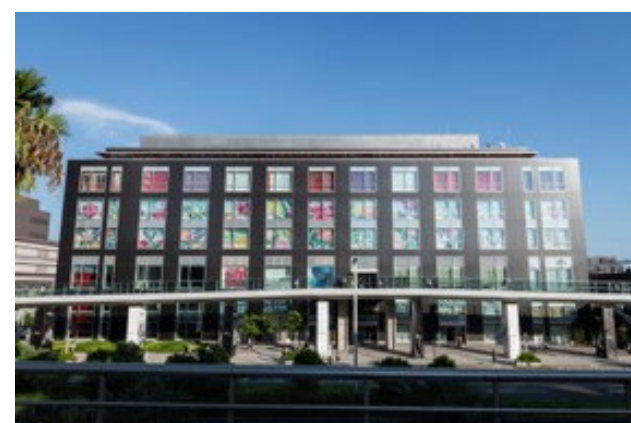
アジア各国のアワードとの提携

MAJでは、アジアのアーティストによる日本を含むアジア全体に影響力を示した「最優秀アジア楽曲賞」を設定。また、中国・韓国・タイ・インドネシア・ベトナム・フィリピン6か国の各アワード運営団体とグローバル連携について合意形成。

MAJ開催を起点として、MAJとアジア各国が運営する各アワード間の提携を強固にすることで、音楽による文化交流、グローバル展開を促進（文化庁「令和7年度日本音楽のグローバル発信拠点の形成支援事業」において支援）。

音楽とアートの融合による新プロジェクト 「MUSIC LOVES ART」日本版SXSWモデルの試行的取組

日本版のSXSW（*）に発展させるべく、音楽やアートの融合、関連ビジネスの創出などの取組を関東、関西で推進中



（*）SXSW（サウス・バイ・サウスウエスト）：米国テキサス州オースティンで取り組まれている音楽、映画、インタラクティブをテーマにした巨大ビジネスカンファレンス&フェスティバル。

第15回日中韓文化大臣会合について

- 日本・中国・韓国の文化担当大臣が、文化分野における3か国の交流・協力について議論を行う会議。2007年以来、3か国で持ち回り開催し、ほぼ途切れることなく継続している。
- 2024年は、第15回会合を日本・京都市にて開催。

第15回会合の概要

- 開催日：令和6年（2024年）9月12日（木）
- 開催場所：京都府京都市 国立京都国際会館、ロームシアター京都
- 参加者：
 - [日本] 盛山 正仁 文部科学大臣 ほか
 - [中国] 張 政 文化・観光部副部長 ほか
 - [韓国] 龍 昊聲 文化体育観光部第1次官 ほか
- 主な内容等：
 - ①「2024京都宣言」の取りまとめ
 - ②「2025-2026日中韓3か国文化交流年」に関する協力覚書の取りまとめ
 - ③2025年東アジア文化都市の選定
 - [日本] 鎌倉市
 - [中国] マカオ特別行政区、湖州市
 - [韓国] 安城市
 - ④日中、日韓二国間会合
 - ⑤「日中韓芸術祭2024」の開催（オーケストラ・アンサンブル金沢の演奏のもと、3か国の歌手が共演し、それぞれの国の抒情歌等を披露）



<成果文書署名式>



<日中韓芸術祭2024>

- ❑ 日本遺産の創設10周年を記念して、京都市において記念式典を開催。
- ❑ 市内別会場では、全国の日本遺産認定地域の様々なストーリーにちなんだイベントや食文化を発信する「日本遺産マルシェ京都」を開催。

- 開催日：令和7年2月15日（土）
- 開催場所：二条城二の丸御殿台所
- 主な内容等：
 - ①日本遺産認定証交付 …… 小樽市
 - ②日本遺産大使の紹介
 - ③伝統芸能披露 など



<認定証交付式>



柳川三味線（京都府京都市）



備中神楽（岡山県高梁市）

日本遺産マルシェ京都

- ・文化庁と日本遺産連盟は、日本遺産に対する理解と関心を高めるため、2月13日を「**日本遺産の日**」として制定。
- ・これに合わせて、2月15日～16日、京都において初めて「日本遺産マルシェ京都」を開催。



- 全国の認定地域の物産の紹介・販売
- 日本遺産のストーリーにちなんだステージイベント
- 日本遺産オフィシャルパートナー企業（※）による出展

※日本遺産への関心を広めるため、民間企業や団体との「日本遺産オフィシャルパートナーシップ」を締結する制度を創設しており、これまでに72社が参加。（令和8年3月時点）

「新指定国宝・重要文化財」展の京都初開催

新たに国宝・重要文化財として指定されることになった美術工芸品を、4月19日（土）から5月11日（日）まで京都文化博物館で公開。主催は文化庁、京都府、京都文化博物館。

これまでは東京で開催していたものを文化庁の京都移転を契機に初めての京都開催。

※展示文化財一例



国宝

{ 木造伎楽面
乾漆伎楽面

所蔵者：東京国立博物館

出典：ColBase <<https://colbase.nich.go.jp/>>

「食文化推進本部」及び「文化観光推進本部」の設置

文化庁の京都移転を契機として、2025年大阪・関西万博への貢献も見据え、文化庁における食文化・文化観光施策それぞれについて、文化庁長官のリーダーシップの下、関係部署相互の緊密な連携を図り、総合的かつ効果的に推進するため、令和5年3月27日に、食文化推進本部・文化観光推進本部を京都に設置。

食文化推進本部

【本部員】

本部長 : 文化庁長官
本部長代理 : 文化庁次長
副本部長 : 文化財鑑査官、審議官、文化戦略官
事務局長 : 参事官（生活文化創造担当）
本部員 : 参事官（生活文化連携担当）ほか関係課長
オブザーバー : 農林水産省 外食・食文化課長
近畿農政局経営・事業支援部長 ※ 農林水産省と連携
観光庁 観光資源課長

文化観光推進本部

【本部員】

本部長 : 文化庁長官
本部長代理 : 文化庁次長
副本部長 : 文化財鑑査官、審議官、文化戦略官
事務局長 : 文化資源活用課長
本部員 : 参事官（文化拠点担当）ほか関係課長
オブザーバー : 観光庁 観光資源課長 ※ 観光庁と連携

令和5年3月28日 食文化推進本部会合開催

4月4日 文化観光推進本部会合開催

4月19日 「地域における食文化及び文化観光行政の更なる推進について」（各都道府県・指定都市宛 文化庁長官通知）

→ 各地方公共団体に対し、両本部の設置について周知するとともに、関係部局横断での推進体制や特色ある取組について、文化庁との連携の観点から、情報提供を依頼

6月27日 食文化推進本部・文化観光推進本部合同会合開催（石川県、京都府、京都市からヒアリング）

令和6年2月5日 食文化推進本部・文化観光推進本部合同会合開催

3月27日 食文化推進本部・文化観光推進本部合同会合開催

令和7年1月14日 食文化推進本部・文化観光推進本部合同会合開催

3月28日 食文化推進本部・文化観光推進本部合同会合開催

（主催イベント）

令和6年1月12日 シンポジウム「京都から日本の夜の価値創造を考える」の開催（文化観光推進本部、京都市と共催）

1月27日 和食ユネスコ無形文化遺産登録10周年記念セミナー（食文化推進本部主催）

2月～3月 京料理の体験イベント開催（食文化推進本部主催）

地域の宝である文化財について、**官民連携で新しい価値を創造し、保存と活用の好循環を実現**するため、文化庁京都移転を契機に、主に以下の取組を実施

文化観光推進本部の機能強化

1 文化財の活用に関する民間人材（コーディネーター）の配置

官民連携で新たな価値を創造するため、文化財の活用（観光活用、資金調達等）に関する民間人材を配置し、文化財の専門職員である文化財調査官とともに、全国各地への伴走支援を機能強化（R6～）

2 文化財の活用に関するイベントやセミナーの開催

文化財の「保存」から「保存と活用の好循環」へ文化財所有者等の意識を改革し、文化財の活用主体的に取り組むことを促すため、イベントやセミナーを開催（R6～）

3 文化財の活用に関する相談窓口の設置

文化財所有者や地方公共団体からの活用に関する相談に対応する相談窓口を設置（R7～）

文化財を高付加価値化する事業の創設・拡充

4 （ソフト）文化財を活用するためのコンテンツ造成事業を創設

「全国各地の魅力的な文化財活用推進事業」を創設し、文化庁や専門家が伴走しながら文化財を高付加価値化して活用するためのコンテンツ造成を支援（R6～）

5 （ハード）文化財建造物を活用するための改修支援事業を拡充

令和6年度に「高付加価値化された文化財への改修・整備促進事業」を拡充し、文化財を高付加価値化された宿泊・飲食・集客施設として活用するための計画の策定から改修工事までを支援（R6～）

目的

食文化の担い手の**社会的地位及び日本の食文化の価値を向上**させ、食文化全体の底上げにつなげる
 食文化に係る**後継者の育成・確保**が進み、業界全体の活性化や持続的な発展につなげる
 食文化分野の重要無形文化財の他、**叙勲・褒章等の他の栄典の授与**につなげる

受賞者の功績を
国内外に発信

食の至宝とは

- 1.各分野の当代一流と目される現役のわざの保持者であり、芸術的価値を表現し続けていること (芸術的意義)
- 2.日本の食文化の価値向上に大きく貢献してきたこと (文化的意義)
- 3.当該分野の後継者が社会的責任を果たす上でのロールモデルとなる存在であること (社会的意義)

トップ
オブトップ
選考

受賞者

かつ
文化的意義
社会的意義
が見出される者



高度な
わざの保持者

無形の
わざの保持者

(例) 飲食店の調理人・店主、給仕
従事者や食料品・飲料製造業の
技術者など

※ 食文化全体の無形のわざの保持者が対象

決定 (11月)

文部科学大臣

選考委員会における選考結果を踏まえて、受賞者を決定する
 食文化の分野における優れた功績をたたえて顕彰し、「食の至宝」と称する

選考

選考委員会

(文化庁長官が委嘱した委員で構成)

食文化を分野横断的に評価でき、高い見識を持つ専門家
 (例)学識経験者、文化人、ジャーナリスト、メディア関係者

被推薦者の中から、公正に受賞候補者を選定する

※受賞候補者決定後、当該わざについての歴史的意義の有無について検討する

推薦 (4月)

推薦委員

(文化庁長官が委嘱)

特定の分野に造詣が深く、客観的な評価ができる専門家
 (例)学識経験者、ジャーナリスト、雑誌編集者、作家

多様性を表現するために、食文化全体から公正に候補者を推薦する

概要

文化庁・京都府・京都市の若手を中心とした有志職員が、京都で受け継がれてきた文化に触れ、その魅力を体感することで、文化的知見を深め、各機関での文化政策の企画立案に生かしていくことを目指す活動。

活動事例

琵琶湖疏水

「琵琶湖疏水」が国宝・重要文化財に指定された機会に、この一大事業が明治時代に如何にして成功裡に実現したか、その歴史的・社会的背景について文化財調査官ら専門家から学ぶとともに、実際に諸施設を見学して、都市基盤施設の建設・運用について理解を深めた。

「能」の学習・体験

能楽師による講演のほか、能の重要な要素であるリズムと謡を実際に体験し、能の歴史や魅力についての理解を深めた。

食文化ワークショップ

「京料理」をテーマに、京都市中央卸売市場の見学や京料理の関係者による講演、意見交換等を行い、「出汁」体験ワークショップを通じて地域に根差して育まれてきた食文化についての理解を深めた。

祇園祭への参加

山・鉦の曳手ボランティアとして参加する若手職員を中心に、和装に親しむとともに、祇園祭関係者のお話を伺い、祇園祭の歴史や文化についての理解を深めた。



京都中央卸売市場
第一市場の見学
令和6年6月21日

